

★★★★★★ 論文賞 ★★★★★★★

山口県立 宇部中央高等学校  
松永 彩花

私は将来管理栄養士になろうと思い、そのため大学進学に向けて勉強に日々励んでいる。幼児期虚弱体質であった私は、病院で点滴など治療を受けることが多かった。食の細い私のため母は工夫を凝らし料理を作ってくれて食べさせてくれた。母の料理のお蔭で体質も改善され、現在のような健康な体を作ることができたのである。この母の私への命を思う日々の取り組みが、私を栄養士、管理栄養士という職業へ私を誘ってくれたと考えている。

この夢の実現に向けて特に私が意識的にしていることを幾つか述べてみる。

その一つは読書である。高校で国語の課題として「読書ノート」が与えられた。このノートは、自分が自由に選んだ本の紹介と感想を記録するものである。入学してからの二年間コンクールに参加し、賞をいただいた。読書の記録が増えていくことが楽しくて、今まで以上に読書量が増えていった。中でも食文化と健康に関するいくつかの本や厚生労働自

書をはじめとする調査研究報告書は、私に進むべき道をより明確に指し示してくれた。

次に英語の学習である。授業以外に英検の学習に取り組んだり、テレビの英語のニュースを視聴したりしている。将来栄養学の英語の論文を読めるようになるために少しレベルの高い学習をと考えてのことである。最近その学習の過程で、管理栄養士の資格を持つ国連職員の子供女性のことと、「国連国際栄養に関する行動の一〇年」について知ることができた。世界の八億近くの人が慢性的に栄養不良であるという悲惨な状況の存在があった。自分の知識の少なさと経験のなさを痛感させられた。

このような私なりの取り組みで得た知識により、貴会のユースホーラムへ参加し、多く高校生と意見を交わしてみたいと切に思うようになったのである。この参加もまた「今できること」の一つとして私を成長させるものと確信している。